NO.4 横手市農業振興センターだより 令和５年６月12日

稲作情報

ＪＡ秋田ふるさと 営農経済部 米穀課 ☎ 23－6556
各営農センター
金 沢 ☎ 37－2124　大 雄 ☎ 52－3665　横 手 ☎ 32－8220　増 田 ☎ 45－2035
平 鹿 ☎ 24－3110　十文字 ☎ 44－3101　大 森 ☎ 26－4155　雄物川 ☎ 22－2266
秋田県農業共済組合横手市支所 ☎ 32－4150
農産課（農作・畑作・損防） ☎ 32－4404　家畜果樹園芸課（家畜・果樹・園芸） ☎ 32－4407
建物農機具課（建物・農機具） ☎ 32－4119　収入保険課（収入保険） ☎ 32－4229
秋田県平鹿地域振興局 農林部 農業振興普及課 ☎ 32－1805
横手市農林部 農業振興課 ☎ 32-2112・32－2113

分げつと根の伸長を促進させる水管理を!!

ふるさと稲作ほっと LINE QRコード 友だち登録お願いします!

管内の田植えは順調に行われ、平年より１日早い５月23日に盛期（50%）となっています。

今後は、分げつと根の伸長を促進させる水管理や追肥に努めましょう。

１．田植後の管理ポイント

◆分げつ初期・中期（６月上～中旬）の水管理

初期生育が遅れている圃場では、分げつの発生を促進するため**「浅水管理」**とし、水温と地温を高めながら日気温較差を大きくします。水田への入水は、水温の低い早朝に短時間で行いましょう。

◆分げつ期（田植え後～６月中旬）の追肥

生育不足、葉色低下時のムラ直しはチッソ成分１kg／10ａ程度で追肥しましょう。

近年、異常気象による品質・収量低下が目立っています。特に高温により稲体の活力が消耗・凋落する傾向が見られます。異常気象に負けない強い稲体を作るため、ＰＫ化成やケイ酸カリの追肥を実施しましょう。散布量は20kg／10ａとし、散布時期は有効茎決定期の６月25日前後が目安です。

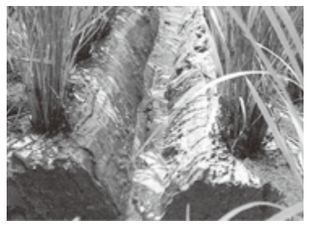
◆有効茎決定期（６月下旬、8.5葉期頃）の水管理

分げつ盛期には、水温・地温の上昇によってガスが発生し、根腐れの原因になります。曇天日か夜間の落水でガス抜きを行い、根の健全化に努めましょう。

６月20日～25日頃から有効茎決定期（葉令8.5葉期頃）に入ります。この時期は強い茎だけでなく弱い茎も発生し始めますので、**中干しまたは深水管理**によって弱い茎の分げつを抑制し、太い茎を主体とした稲株を作ることが大切です。

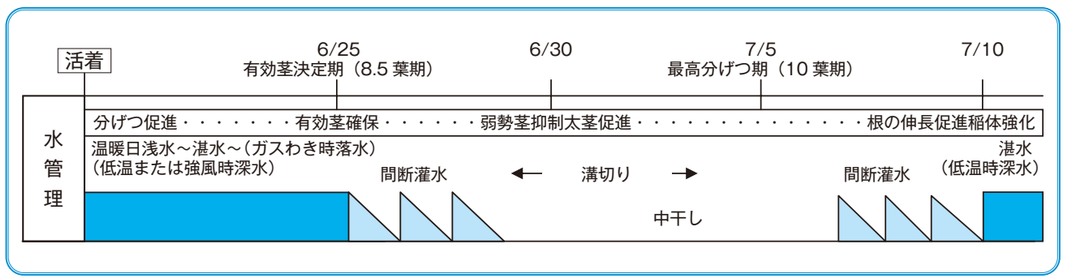
◆中干しまたは深水管理による分げつ抑制

目標茎数の80%程度確保（70株植で１株18～20本程度）したら徐々に中干し（時期：６月下旬～７月上旬目途）を開始します。また、排水不良田や異常還元田では中干しに先立って、溝切りを実施し排水と根への酸素供給を促しましょう。溝切りは追肥で流し込みをする場合、水のコントロール（均一施肥）がしやすくなります。



中干しの期間は７日～10日程度とし、歩くと軽く足跡がつく程度とします。中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的に保ち根の伸長と健全化に努めましょう。

排水不良田では、中干しによる分げつ抑制が不十分となるため、深水管理（15cm程度）が有効です。



２．水田雑草対策（カメムシ防除は、雑草防除から！）

ホタルイやノビエが残草すると圃場内がアカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメの産卵・繁殖場所となります。

初中期一発剤の効果が不十分で残草が見られたら、中後期剤散布により雑草防除を実施しましょう。

① 適期処理：残草している雑草の種類を見極め、適正薬剤の選択と使用基準に基づき適期に処理することが重要です。

② 使用方法

＊**湛水処理の場合**、湛水状態（水深３～５cm程度）を確保し処理後３～４日間は足し水をせず、その間田面が露出しないことが重要です。また、散布後７日間は落水かけ流しをしないでください。

＊**落水処理の場合**、落水状態かできるだけ浅水状態とし、処理後２日以内に降雨があると効果が劣りますので、好天の続く時に処理することを心がけましょう。（深水では効果が劣ります。）

＊落水処理の場合でも、**水口と尻水口はしっかり止めて薬剤散布**しましょう。

◎除草剤名と使用上の注意事項

除草剤名	成分数	使用時期	ノビエ	コナギ	ホタルイ	オモダカ	クログワイ	ヒルムシロ	使用上の注意
クリンチャー粒剤	1	移植後７日～（ノビエ4.0葉まで）	◎	×	×	×	×	×	湛水使用
ヒエクリーン粒剤・豆つぶ	1	移植後15日～（ノビエ4.0葉まで）	◎	×	×	×	×	×	湛水使用、土壌処理効果
トドメＭＦ粒剤	1	移植後14日～（ノビエ5.0葉まで）	◎	×	×	×	×	×	湛水使用、土壌処理効果
トドメＭＦ乳剤	1	移植後14日～（ノビエ7.0葉まで）	◎	×	×	×	×	×	湛水使用、土壌処理効果、展着剤不要
クリンチャーＥＷ	1	移植後20日～（ノビエ6.0葉まで）	◎	×	×	×	×	×	落水使用、展着剤加用
テッケン粒剤・ジャンボ	2	移植後15日～（ノビエ4.0葉まで）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	高温時注意、湛水使用
アトトリ粒剤・豆つぶ	1	移植後20日～（ノビエ4.0葉まで）	◎	×	×	◎	◎	◎	高温時注意、湛水使用
ワイドパワー粒剤	2	移植後20日～（ノビエ5.0葉まで）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	漏水田避ける 高温時注意、落水使用
クリンチャーバスＭＥ液剤	2	移植後15日～（ノビエ5.0葉まで）	◎	◎	◎	◎	◎	×	落水使用、展着剤不要
トドメバスＭＦ液剤	2	移植後15日～（ノビエ6.0葉まで）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	落水使用、展着剤不要
ワイドアタックＳＣ	1	移植後20日～（ノビエ6.0葉まで）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	落水使用、展着剤不要
バサグラン粒剤・液剤	1	移植後15日～55日	×	◎	◎	◎	◎	◎	ごく浅く湛水または落水散布、展着剤不要
バイスコープ１キロ粒剤	2	移植後14日～60日	×	◎	◎	◎	◎	×	湛水散布
モゲトン粒剤	1	藻類・表層剥離発生時							湛水使用

除草効果　大；◎　小～無；×

薬害注意！

＊散布時の注意点：気温が30℃以上の炎天下での散布は、薬害が発生する恐れがあります。

＊表層剥離・アオミドロ等の発生圃場では、地温や水温が上昇せず生育を抑制します。
雨の日の水の入れ替えをしながら、必要に応じてモゲトン粒剤の散布を実施して下さい。
中後期剤は効果が見え始めるのに２週間程度かかります。

３．カメムシ対策

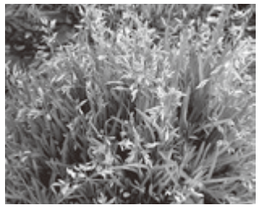
秋田県病害虫防除所によると、斑点米カメムシ類の越冬世代の発生は昨年同様早まっており発生が多い予報となっております。

斑点米発生の原因となるカメムシ類（アカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメ）は、農道・畦畔・排水路の法面・休耕田等のイネ科雑草や牧草の穂・実などを吸汁して繁殖・増殖します。特にアカスジカスミカメはイネ科雑草の穂に産卵しますので、増殖を防ぐために定期的に畦畔の草刈りと休耕田の薬剤防除等を実施して下さい。また、防除しただけでは薬剤の効果が切れた後、再びカメムシの繁殖場所となりますので、防除後は草刈りや鋤き込みを行うことが重要となります。

草刈りの体系は下表の通りとなります。１回目の本田殺虫剤防除後畦畔・農道・水路法面の草刈りを実施し、カメムシの生息する場所をなくしてカメムシ密度抑制を図ります。草刈り期間は残効を考慮し、**薬剤散布直後から１週間以内が基本**となります。

時期	６月			７月			８月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
本田	**中後期除草剤雑草防除** （ノビエ・ホタルイを繁茂させない）						出穂	殺虫剤１回目防除 出穂期10日後頃	殺虫剤２回目防除 出穂期24日後頃
農道・畦畔 水路法面	６月上旬から出穂10日前まで イネ科雑草が穂をつける前に実施する **地域一斉草刈り２～３回**					草刈り禁止	**カメムシ防除後** アカスジカスミカメの 生息地をなくすため **薬剤散布後１週間以内に草刈り**		草刈り禁止
休耕田等	**薬剤防除及び草刈り・鋤き込み**					**草刈り禁止**			

カメムシ類（特にアカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメ）が好む主な草種
※畦畔や農道、休耕田に多く見られます！


スズメノカタビラ

スズメノテッポウ

メヒシバ

エノコログサ

【ケイ酸資材で斑点米カメムシ被害対策を！】

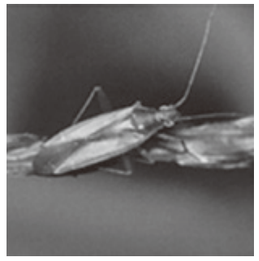
ケイ酸には、イネ自体を強くし食味向上に貢献するだけでなく実は斑点米カメムシ対策にもなります！**基肥や追肥によりケイ酸資材を投入することで籾の割れ籾を軽減する効果があります。**あきたこまちは比較的割れ籾しやすい品種ですので、斑点米対策・乳白米対策・倒伏対策にケイ酸資材が有効です（追肥の場合はシリカ未来やケイ酸カリプレミア34、KSK28がおススメです。）

割れ籾の隙間から斑点米カメムシが吸汁する！

斑点米の主犯格！ アカスジカスミカメの生態

幼虫

- 成虫の体長4.6～6.0㎜程度、若齢幼虫はアブラムシ大程度。
- 卵で越冬し、年３回孵化世代を繰り返す。
- ノビエ等のイネ科、ホタルイ等のカヤツリグサ科の穂に産卵する。
- 稲にはほとんど産卵しない。
- 水田内への侵入は寄生雑草の出穂時期に左右される。
- ８月下旬の登熟後半も割籾から玄米を溶かし吸汁できる。


成虫

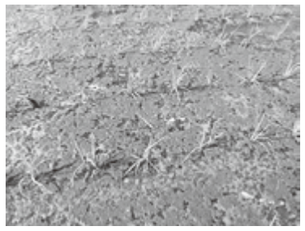
ノビエ

水田内のヒエ･ホタルイの穂はアカスジカスミカメムシの産卵する場所になります。早期に中後期除草剤の選択・適正使用を!!
※除草剤で抑えきれない圃場（写真）は、本田の２回殺虫剤防除（例：①スタークル剤＋②キラップ剤又はエクシード剤等）が必須となります。

ホタルイ

６月はガスワキ・表層剥離による生育不良に注意!!

田植え後、気温上昇に伴い、ガスワキ、表層剥離が発生します。
表層剥離が起こると稲の生長点に日光が当たらず生育不良を起こします。さらにガスワキが起こると根腐れを起こし、重症化すると欠株となってしまいます。



【★表層剥離・ガスワキ対策★】
①鉄分を含む資材（例：シリカ未来等）を散布する
鉄分はガスワキ・表層剥離を抑制・解消する効果があります。
②落水もしくは飽水管理をし、根に酸素を供給する
圃場の足跡に水が溜まる程度まで減水させ、土壌表面の湿潤状態を維持する飽水管理・落水管理を推奨します。

★ガスワキ・表層剥離の根本の原因は前年の稲ワラがそのまま残ってしまうことです。秋鋤きこみを行い稲ワラの腐熟を促進することでガスワキ・表層剥離の抑制につながります。

【ふるさとecoらいす表示札・特別栽培米表示札】 圃場への設置は栽培要件です。必ず圃場へ設置しましょう！